

2019年2月24日(日)

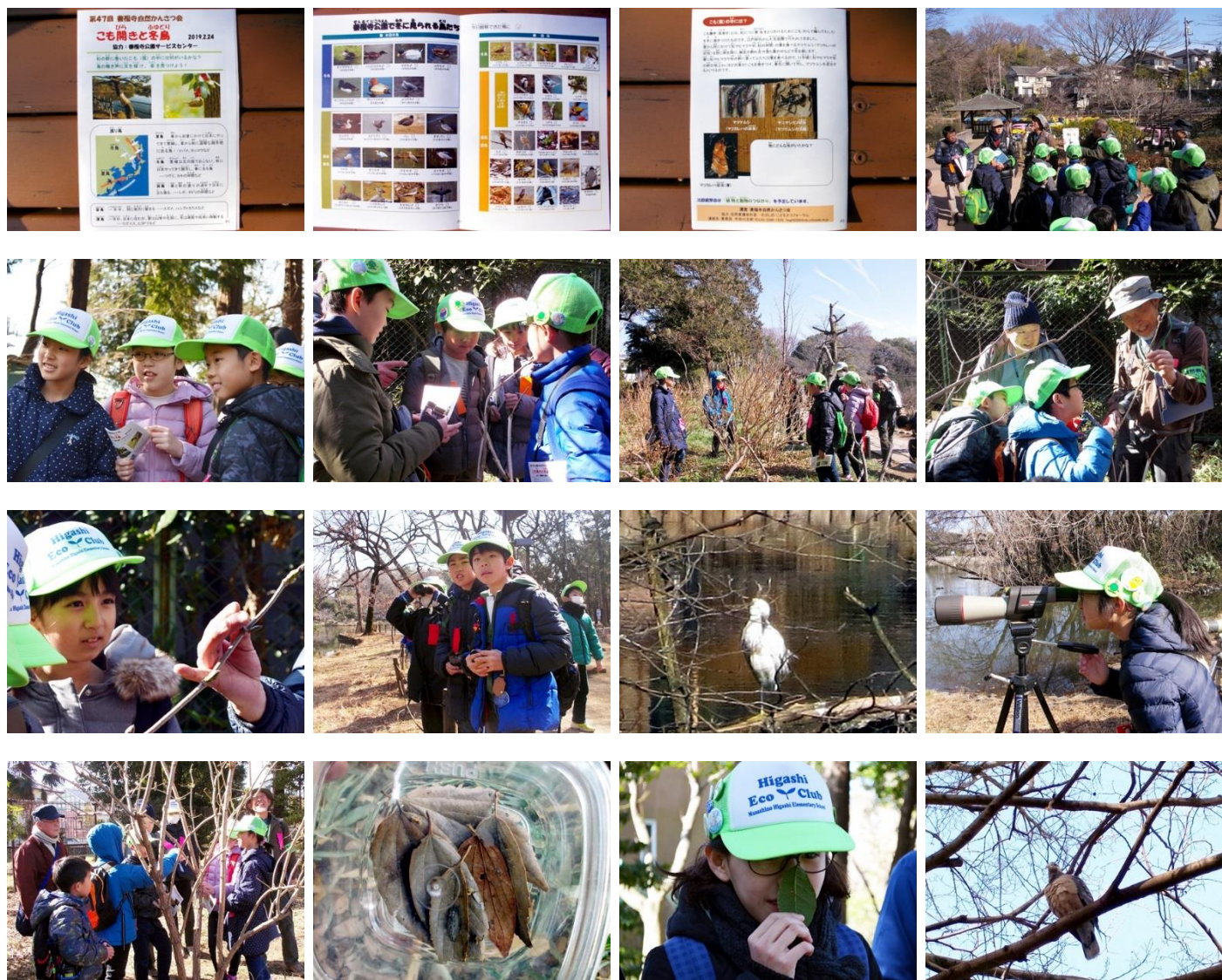
東エコクラブ「こも開きと冬鳥」観察会

東エコクラブは善福寺自然かんさつ会の皆様のご指導のもと、善福寺公園で行われた「こも開きと冬鳥」観察会に参加してきました。こも開きのこも(菰)とは、松の木につく害虫マツケムシ(成虫マツカレハの幼虫)をとりのけるために巻かれた藁(わら)で編んだむしろのことで、江戸時代の昔から行われているものだそうです。マツケムシは夏から秋にかけて松の葉を食べ、秋には幹を降りて樹皮の割れ目や落ち葉の中で冬を過ごします。春にはまた幹に登って葉を食べてしまうので、11月頃に幹の地上2mほどの高さにももを巻きつけ、温かく過ごせる藁の中に潜んでいるマツケムシを退治するために、春先に開いて外すそうです。

A~Hグループに分かれて観察していった結果はマツケムシ(マツカレハの幼虫)が9匹、ヤニサシガメが144匹、その他の昆虫が30匹、クモが116匹、全部で299匹の昆虫を観察することができました。

また、善福寺公園に棲む昆虫類や冬鳥の観察をしました。一年中同じ地方に留まる留鳥と、季節に応じて移動する漂鳥の違いや特徴などについて教えていただきました。観察の結果、この日は15種類の冬鳥を観察することができました。

観察会の最後にはグループごとに感想を言う時間もありましたが、東エコクラブは積極的に発表していました。







70年用き集計結果(推榜)

種別	70年用き	70年用き	70年用き	備考		
2014	3本	0	22	8	1	
2015	6本	0	58	125	13	
2016	8本	20	92	64	21	
2017	10本	33	126	131	14	
2018	9本	1	91	125	13	
2019	8本	9	142	116	30	
計		43		579	92	

